

# 救急部



診療部動画



診療部 HP



## 1. スタッフ

部長 (教授) いりえ ひろき 入江 弘基  
 助教 2名  
 診療助手 4名  
 医員 2名  
 総合診療科医師 7名

(専門診療科：整形外科、消化器内科、循環器内科、画像診断科、脳神経外科、歯科口腔外科から出向)

## 2. 特徴・診療内容

当部は、救急外来の診療を担当しています。救急外来では、救急車で搬送される救急患者の初期診療を専任医師が行い、必要に応じて専門診療科にコンサルトしています。当院にかかりつけの患者をはじめ、軽症から重症まで様々な救急患者に対応しているのが当院救急外来の特徴です。入院を要する重症患者は集中治療部 (ICU) や高度治療室 (HCU) で入院治療が行われます。当部のスタッフ医師には救急科専門医3名が在籍しています。

## 3. 診療体制

### 1) 救急外来 (ER)

救急部スタッフ医師に加えて、専門診療科からの応援医師 (診療助手) による2交代勤務で、365日24時間体制で救急患者の診療を行っています。2019年度より診療体制を一新し、地域医療・総合診療実践学寄附講座や地域医療支援センターから救急診療への応援を得て、2022年度からは災害医療教育センターからも応援を得て診療体制の充実を図っています。救急隊からのホットラインには各勤務帯のER担当医師が直接対応し、患者受け入れの可否を決定します。対象は当院かかりつけの患者をはじめ初診の患者も含めて初期診療を行い、必要に応じて専門診療科に紹介し専門的な治療をお願いしています。また、重症患者は集中治療部 (ICU) や高度治療室 (HCU) に入室し、高度な入院治療が行われています。さらに、4床の一般病床を確保し、軽症～中等症患者の入院診療を担当しています。2023年度より院内救急救命士を採用しています。

## 4. 診療実績

### 1) 救急外来 (ER)

2008年度以降、救急患者数は年々増加しています。特に2016年度は熊本地震の影響で救急車台数および救急患者数が急増しました。その後、救急患者数

は減少しましたが、2019年度より診療態勢を拡大し、より多くの救急患者受け入れを行っています。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、搬入件数の減少を認めています。2021年7月には救急外来処置室を陰圧室へ改修し、2床増加しました。2023年度では、熊本地震直後を超えて、過去最高の救急車の受け入れを行っています。

かかりつけ患者を中心に軽症から重症まで様々な救急患者を受け入れ、必要に応じて専門診療科の協力も得ながら、初期診療を行っています。入院を要する救急患者を当科で担当することもあります。

また、救急患者の症例カンファレンスを毎週行うとともに、最先端の救急医療に関するレクチャーなども実施して診療の質の向上に努めています。

年度	救急患者数	救急車台数
2023年度	5,336名	3,516台
2022年度	4,229名	2,842台
2021年度	3,688名	2,321台
2020年度	3,487名	1,998台
2019年度	4,390名	2,555台
2018年度	3,659名	1,994台
2017年度	4,449名	2,585台
2016年度	5,009名	2,896台
2015年度	3,448名	1,698台
2014年度	3,498名	1,679台
2013年度	3,199名	1,580台
2012年度	3,304名	1,685台
2011年度	2,840名	1,378台
2010年度	2,060名	1,097台
2009年度	1,962名	993台
2008年度	1,501名	684台

## 5. 高度先進的な医療への取組

院外心肺停止蘇生後の患者に対する体温管理療法などは集中治療部と協力して行います。

## 6. 地域医療への貢献

救急車の受け入れ台数の増加は、地域医療のセーフティネットとして重要な役割を担っています。救急患者搬送後の経過を救急隊に事後検証や救急症例カンファレンスを通じて、顔が見える環境での振り返りを行い、現場での初療体制の充実を図るようにしています。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、検討会の実施も中断していましたが、2021年度よりオンラインで開催することで感染の流行状況によらず、救急症例検討会を継続することができています。

公的機関や社会的な諸団体からの救急医療に関する様々な要請や医療人育成に関する学外からの要請に対し以下のような協力を行っています。

- 1) 県内外の様々なイベントや行事等に伴う緊急時の対応への協力（熊本城マラソンなど）
- 2) 熊本県メディカルコントロール協議会、救急教育セミナー、県救急医療連絡協議会、熊本市災害医療協議会、県医師会救急医療委員会など様々な救急関連の活動への協力
- 3) 研究会やカンファレンス
  - (1) 救急隊との救急症例カンファレンス
  - (2) 熊本救急・集中治療研究会の運営

## 7. 医療人教育の取組

救急医学に関する以下のような卒前・卒後教育の実践や協力を行っています。救急患者に医師と一緒に対応し、対応後に振り返りも症例ごとに行う体制を維持しています。

- 1) 卒前教育
  - (1) 医学科2年生の早期体験学習
  - (2) 医学科3年生の基礎演習
  - (3) 医学科4年生の「救急医学」系統講義
  - (4) 医学科4-5年生の臨床実習（ポリクリ）
  - (5) 医学科5-6年生の特別臨床実習（クリクラ）
- 2) 卒後教育
  - (1) 初期臨床研修医の救急部門研修
  - (2) 心肺蘇生法講習会（初期研修医コース）
  - (3) 救急科専門研修プログラム
- 3) 生涯教育
  - (1) 心肺蘇生法講習会（指導医コース）
  - (2) 専門学校救急救命学科学生の病院実習
  - (3) ICLS（心肺蘇生）やJATEC（外傷診療）コースの運営・指導
- 4) 他職種連携
  - (1) 救急救命士養成の実習生受け入れ



【救急外来初療室】



【救急車搬入口】



【救急症例カンファレンス】